

高等学校芸術科(音楽)実技講座

学習指導部

今年度の講師としてお迎えする、三善晃氏が本講座を開くにあたって寄せられた文章を紹介いたします。

＜音の水脈と出会う＞

人は言葉によって世界を理解する。
言葉によって世界を作り出す、とも
言えよう。言葉こそ、人を人たらしめ
るものであろう。

それならば、人はなぜ歌うのか。

歌うとき、いや、歌いたくなるとき
人の心は何を求めているのか。

一人一人の心の深部に、音の水脈が
流れている。

いま私たちは、それを忘れていやし
まいか。

音楽教育の現場ばかりでなく、私たちが
忘れていた心のある在り方を見直そうとする文
章ではないでしょうか。

今学校では、生徒たちが歌わなくなった
という声が多く聞かれ、先生方の大きな悩
みとなっています。

「高等学校芸術科(音楽)実技講座」は、
長年にわたってその時々の本県の高等学校
における音楽教育の課題に対応した内容を
取り入れて講座を展開してまいりました。

本県は「合唱王国」と言われ、全国的に

合唱活動の盛んな県として知られておりま
す。特に高等学校のレベルは高く、全国大
会に出場した学校は延べ14校を数え他県に
類を見ません。この成果は長年自己研鑽を
積んだベテランの先生方の努力に負うとこ
ろが大きく、それに続く若い先生方の活躍
が期待されており、合唱活動の底辺拡大も
叫ばれております。

その声に少しでも応えるべく、本年度は
合唱音楽の指導法を中心に、11月30日(水)
～12月2日(金)の三日間の講座を計画い
たしました。

第一日目に、桐朋学園大学学長で作曲家
の三善晃氏をお迎えして、「音楽教育の動
向と展望」という題でご講義いただき、現
在の音楽教育に対する問題点について質疑
を交えてお話しいただき、学校での取り組
み方について考えていきます。

第二日目は、日本における合唱指導では
第一任者の、東邦音楽大学教授の渡辺三郎
氏をお迎えして「ルネサンス期における合
唱音楽の演奏解釈について」という題で合
唱音楽の宝庫、合唱の源と言われるルネサ
ンス期の音楽を実習を通してその指導法を
ご講義いただきます。

本講座を通して、各学校での合唱活動が
ますます盛んになり、本県の合唱がさらに
発展していくことを願うところです。